

2024 年度第 3 回理事会 議事録

一般社団法人 日本損害保険代理業協会

日 時：2024 年 7 月 12 日(金) 13:00 ~ 16:59

会 場：日本代協会議室

出席者：全理事数 17 名、出席理事数 17 名、出席監事数 2 名（津田監事 小島監事）
小田島会長 小俣副会長 中島副会長 山中副会長
佐々木理事 雨宮理事 石川理事 小橋理事 三好理事 郡理事 松本理事
雨宮(新)理事 藤山理事 植村理事 大和理事 金澤専務 坂常務
(Web 参加：事務局)

会長 小田島 綾子氏は、議長席につき、出席理事数の確認を行い、本理事会は定款第 33 条に基づき、有効に成立した旨を報告して開会を宣し、直ちに議事に入った。

<会長挨拶>

新しい体制になり、今回が皆さんから審議、報告をいただくスタートの理事会です。新任理事は自身のパートはもちろんですが、議論が深まるような気づき、質問をぜひお願いします。2 期、3 期目の皆さん、実カプラスで新しいコミュニケーションや課題発見、チャレンジをいただきたいと思います。各地で協議会を開催いただきありがとうございます。日本代協の会議室で開催される各委員会にもご挨拶で参加し、委員の皆さんの自己紹介をお一人ごとによりしっかりと聴かせていただき、若いエネルギーに良いアクション、アイデアが生まれそうなワクワク感を感じました。委員長もご一緒の感想だと思えます。委員の皆さんにはブロック代表としてリーダーシップ、情報伝達、収集にご期待を申し上げます。

さて、今月末には活力研が開催されます。テーマをご覧いただいておりますが、有識者会議報告書も踏まえ、各保険会社とどのような話ができるか、何がお聞きできるか、1 社 2 時間、今後の動きに注目してください。

<前回理事会以降の業務報告>

- 6 月 20 日 損保協会 大知専務と新潟にて懇談
- 6 月 21 日 CSR 委員会挨拶
- 6 月 24 日 企画環境委員会挨拶
- 6 月 25 日 正副オンラインミーティング
- 6 月 28 日 教育委員会挨拶
- 7 月 1 日 損保協会 新協会長 東京海上日動 城田社長へご挨拶
- 7 月 4 日 業界紙懇談会 大和委員長同席
- 7 月 5 日 組織委員会挨拶
- 7 月 11 日 7 社懇談会オンライン 正副、藤山委員長、雨宮委員長

■審議事項

1. 表彰者選考会議構成員の委嘱

事務局より、資料に基づいて、以下の通り提案され、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

・対象年度：2024 年度分表彰者選考会議構成員については、表彰施行規則第 7 条の規則に基づき、以下の 5 名が選出された。

小俣藤夫(副会長) 雨宮豊(理事) 郡英宏(理事) 藤山裕介(理事組織委員長)
金澤亨(専務理事)

【留意事項】

功労者表彰候補者の選出は 7 月 31 日を期日として報告を求めているので、遅滞なく提出いただくようお願いする。〈5 月 20 日発信 第 24-024 号 (A-6) 〉

2. 第 13 回コンベンションの企画案

事務局から資料に基づき説明があり、基調講演のアーカイブ配信を実施しないことが賛成多数(賛成 16・反対 1: 雨宮新一郎理事*)で承認された。あわせてテーマと分科会の内容について説明があり、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・テーマを「シン・代理店価値」とする。
- ・基調講演のアーカイブ配信は実施せず、分科会の配信は実施する。
- ・分科会の 2 名の講師を正式に決定した。

・シン・代理店価値

時代の変化のスピードはますます速くなっており、多くの課題を抱えながらも持続的な成長に向かってお客様の関心も変化している。我々代理店にも、主体的に提供する価値や業務品質を高めながら、更なる進化の時が来ている。自社をどのように進化させていくか、そのヒントを会員に提供するコンベンションとしたい

・アーカイブ配信議論の前提

1 か月 165 千円の有料であり、昨年の基調講演の再生回数は 145 回であったこと。

* 反対意見：基調講演のテーマが若者と女性の活躍という代理店経営に合致する内容であり、配信が望ましいと判断するため。

・分科会

③株式会社 Furusapo / ふるサポ 代表取締役・SDGs コンサルタント 中島 達朗 氏
SDGs の観点からの次世代型代理店像とマーケット開拓についてお話しいただく予定。

④RiMiX 株式会社 代表取締役 今徳 良 氏 (大分代協会員)

サイバー保険への取り組みを始めとした代理店経営についてお話しいただく予定。

・分科会については、従来同様配信を行う。

(審 2) 第 13 回コンベンション企画案 20240712

3. 委員会委員の変更について

事務局より、企画環境委員会および組織委員会委員の交代について報告があり、審議採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・南関東ブロック選出の企画環境委員を神奈川県代協__安藤広氏に交代する。
- ・南関東ブロック選出の組織委員を神奈川県代協__堀口好美氏に交代する。

【補足意見】

両委員とも積極的に活動する意気込みがあり、委員会、ブロックでの活躍が期待できる。
(審3) 委員会委員選出名簿 (南関東ブロック)

4. 魅力研について

【決定したこと】

- ・新体制下で展開する内容を指名メンバーで協議し、9月理事会に報告する。

【主な意見】

- ・日本代協の会員資格等のあり方を議論する機会としてもらいたい。
- ・代協の魅力を高めるには、未来志向でなければ先には進めない。もっと未来の人に道を作るくらいの気迫で討議を進める必要がある
- ・昨年来、業界全体を取り巻く環境が変化しており、テーマとして取り上げるべきか否かの判断基準も変わってきている。
- ・地域課題なのか全体課題なのかを明確にすべきである。
- ・2テーマに絞りこんではどうか。

■報告事項

1. 事業計画進捗状況

委員会担当理事、地域担当理事より報告があり、確認、共有された。

あわせて有機者会議を踏まえて委員会担当理事により集約された議論内容が披露され、確認、共有された。

(1) 委員会担当理事

①企画環境委員会 (松本委員長)

有機者会議の報告書(案)に関わりのある項目が多いので、取組の重要性を共有した。三冠王から離れた取組については委員会内で目標を設定し、一年目は浸透を優先し、二年にかけてギアをあげたいと考えている。同時に価値向上策の取組事例、成功事例をクローズアップしどこが活性しているかの情報をオープンにしていきたい。

【質問】

- ・JSA-S と ISO との棲み分けはどうか？比較は可能なのか？
PDCA サイクルや品質マネジメントシステムなどの基本的な内容は似ており全く異なるものではない。ISO は国際規格であり日本では JIS 規格となる。JSA-S は保険代理店専門の規格である。ISO を取得し品質を高める動きに問題は全くない。
- ・ISO JSA-S JIACA の違いがわからないので、比較できないか？
すべての基準がオープンになっておらず比較は難しいが、調べてみる。

②教育委員会 (雨宮新一郎委員長)

アカデミーについては、委員会と全国での推進の方向性を定めるために「3月末の利用会員数+正会員数の2%」を目標として設定した(7月10日発信の教育委員会議事録を参照

いただきたい)。目標は追いかけやすい数字とし、達成感を得て次のステップに持っていくため2%の設定とした。トータルプランナーは、TNP 社には従来同様に声掛けを実施し、本年は SJP 社に推進をかけていく方針である。トータルプランナー受講者の裾野が広がっている点では、業務担当者の受講者増が顕著となっており、web ならではの受講しやすさが主要因である。

【要望】

業務担当者のレベルに対応したカリキュラム内容の検討をお願いしたい。

③組織委員会（藤山委員長）

仲間づくり推進の背景を理解し、絶対数ではなく組織率を意識することが重要である点を委員会で共有した。14 名が新任であり、組織率を追求すると分母の考え方の質問が集中するので、新委員会スタートにおいて決定方法を確認し共有した。新旧メンバーの交替においては、旧メンバーに協力をいただき最低 3 か月は引継ぎや現地の相談に応じてもらえる体制を築いてもらっており、組織対策上有効であると認識している。

④CSR 委員会（植村委員長）

本年度の諮問事項の共有と改善事例を全国で共有し、実効性のある CSR 活動の実践につなげていくことを確認した。継続活動には前例踏襲ではなく創意工夫を取り入れてもらいたい。具体的には、街頭でのビラ配りにこだわらず、大学構内で実施するなど臨機応変に対応することが重要である。防災士に注目が集まっており、損害保険のリテラシー向上に代理店自身が取り組むことが必要な一例としたい。

⑤広報委員会（大和委員長）

本年度は動画を作らず、広告配信もしない方針とし代替策を検討する。仕事の魅力や保険代理店の存在意義を WEB 上のランディングページで知らしめるなどの検討を行いたい。活動案内の 25 年度版をリニューアルしたいと考えている。日本代協の HP の改編を委員会として推進していきたい。

(2) 地域担当理事

- ・各代協総会では、金融庁三浦課長との意見交換会や有識者会議についての確認を要請した。このような環境下こそ代協会員は資質を高め業界をリードする必要があることを共有した。青森県代協では新入会員から「このような素晴らしい組織に入会出来たことへの感謝」の言葉があり、今後の組織を支える人材となっていただきたいことを共有した。
- ・三冠王項目が絞り込まれたことが、仲間づくり推進にプラスに働いている。全地区で仲間づくり達成の意気込みを感じる。新設の日本代協特別賞の選定については検討が必要であり、情報共有しつつ展開したい。ブロック単位では、有識者会議を踏まえて真のおお客様目線の業務運営とは何かについて、会員、未加入代理店、消費者までを対象を広げたアンケート調査を行う予定である。あわせて防災士の動きが顕著であり、特に群馬代協では社会福祉協議会と連携して学習ボランティアを行い、小中学校に取り入れてもらう事例が報告されている。また支部活性に向けて県の理事が一丸となって行動しているなどの事例も紹介されている。
- ・拡大協議会ではブロック長によるプレゼンが実施され、すべての代協が三冠王、特別賞

を目指す構図が描かれている。仲間づくりについては、AD 社共催セミナーが継続しており、各地でフォローしている。有識者会議報告などの材料が含まれることにより、各代協セミナーの開催前後で会員の意識に変化が生じていると気づくことがあった。

(補足：AD 社は本年度 20 地区で共催セミナーを予定している)

- ・スリム化された三冠王施策について「いつまでも数値目標ではなく、必要性を感じるものを提案し、現場が喜ぶものを出すべき」との意見があった。仲間づくりに関しては、保険会社との関係性が地区ごとに異なり、接点頻度も変化しているが、良き関係を維持して、成果にむすびつけたい。
- ・11 支部を 6 支部に集約し、会費改定を行った代協は、役員の皆さんの丁寧な事前説明がなされており、その行動は特筆できる。
- ・地区においても、委員同士、委員会が横連携でタッグを組むことで単独行動よりも大きな効果が生じていると認識している。
- ・広島では女性若手活躍委員会が発足している。各地で活躍の場を設ける事例が増加しているので共有する。
- ・三冠王がスリム化しても代協運営や会員の知識向上を考えれば、従来通りのものとして取り組みたいと考えている。スリム化は目に見えない部分で負担が減ると思われる。その中で大阪代協では、三冠王施策以外に全会員アンケートの継続実施と保険業界への提言、アカデミーの推進、組織率 75%達成、防災士取得、出前授業などを実施している。
- ・南海トラフ関連の対策について、経験者の皆さまの参考意見をいただきたいとの要請を受けたのでご意見をお願いしたい。

【災害で壊滅的状況にあると想定した代理店としてのお客さま対応について】

能登半島地震、熊本地震、大規模水害、東日本大震災においてお客様対応を実施した経験者より意見があった。

- ・壊滅的な状況でも、保険会社は支社機能を復活してくれる。ここは任せるべきである。
- ・代理店事務所が店舗兼住宅である場合は、今回の震災でも大きな影響を受けた。
- ・個別対応ではあるが、事前に遠隔地の代理店（東京神戸）間で 95:5 の代理店分担方式を取り入れている例がある
- ・代理店が地域の仲間として協力しようとしても保険会社が異なる中では情報開示の限界がある。被災地区のお客さまがどこに連絡すればよいかの窓口案内（通常損保協会が設置）を広めることが優先であると考えられる。実際にその行動を行った経験がある。
- ・いずれも事業継続の重要事項であるので、企画環境委員会で集約し再情宣願したい。

(報 1①) 後送：事業計画進捗状況（委員会パート）

(3) 有識者会議報告書を踏まえた議論について

藤山組織委員長から、有識者会議報告を踏まえた議論により策定した資料を基に報告があり、確認、共有された。

【概要】

- ・有識者会議報告を基に、委員会担当理事、中島副会長で議論を行った
- ・一部の代理店、一部のチャネル、保険会社が惹起したことではあるが、我々の業界は大きく変化すると考えている。何をすれば良いのか、何に取組めば将来が安泰であるのかなどの結論を出すことは難しく、大きな流れを捉え課題整理が重要と判断した。

- ・様々な意見はあるだろうが、日本代協が議論を行っていることは理解いただきたい。
- ・最終目的である「契約者および一般消費者のために私達は資質を高めていく」ことを見据えて、情報をキャッチアップしてお客様のために何が出来るかを追求したい。

【各委員長見解】

委員会活動を報告書に当てはめた際に合致する部分が多く、従来の各委員会活動の項目の重要性や方向性が正しかった点を認識し、今後活かしていくことを共有した。

【今後の展開】

地域担当理事との議論材料とする。

当局や損保協会にも日本代協で検討している内容として伝達したい。

* 大きな流れと委員会の活動が合致する一例

教育について募集人の「継続教育の高度化、厳格化」という言葉が表明された。トータルプランナーの抜本改革、学習カリキュラムの改定とタイミングが一致するので、教育委員会としてしっかりと対応していきたい。

2. 各代協総会の運営について

事務局より資料に基づき説明があり、確認、共有された。

- ・各地でどのようなセミナーが実施されているかの参考情報として資料を共有する。
- ・代協総会の開始前などにPR動画を放映いただいている。「YouTubeの再生リストをループ再生する方法」を広報から提供するので、今後の放映機会に活用いただきたい。

(報2) 2024 各代協総会報告書

3. 前々回理事会(2024. 5. 10)以降の主な業務報告

(1) 仲間づくり推進

事務局より資料に基づき、仲間づくり推進について報告があり、確認、共有された。

- ・6月末会員数 10,682店(対3月末▲89店)である。
- ・新潟、福井が早期に目標を達成した。
- ・代申会社別では、MS▲30 TN▲27 SJ▲26 AD▲9と推移している。

(2) 損害保険大学課程各コースについて

事務局より資料に基づき、損害保険大学課程について報告があり、確認、共有された。

- ・7月から開始したコンサルティングコースWebセミナーについては、今後の教育制度、資格制度などの新たな議論が想定される中で一層の協力要請を行なった。

(3) 日本代協アカデミー

事務局より資料に基づき、日本代協アカデミーについて報告があり、共有された。

- ・6月教育委員会において独自目標の設定と推進を決定した。

(報3) 主な業務報告諸資料(6月末)

仲間づくり推進(正会員増強運動)目標達成状況表

損害保険大学課程に関する諸資料

アカデミー利用会員数

4. 7社懇について

事務局より7月11日に開催した7社懇について報告があり、確認、共有された。

- ・前年度は諸問題の影響により中止となった。本年度は意見交換の無いZoom開催であれば可能との意見が保険会社側からあり、1時間の懇談会となった。日本代協と接点の少ない保険会社からは、本会が貴重な情報機会であるとの評価もいただいた。

(報4) 後送：損保7社・損保協会様との懇談会レジュメ 0711

5. 能登半島地震義援金送金確認

事務局より2024年5月15日の送金内容について報告があり、確認、共有された。

(報5) 義援金振込立証資料(能登半島地震)

6. 代協総会後の手続きについての留意点

事務局より総会後の役員届出などの手続きにおいて報告があり、確認、共有された。

あわせて現時点で各地の総会運営における課題が判明しているならば、ルールに則り改善準備を行うよう共有した。

(報6①) 総会後の手続きにおける課題

(報6②) 後送：2024年度日本代協通常総会運営要領

7. 理事オリエンテーションで意見のあった行事祝いなどの内規について

事務局より開催行事対応についての報告があり、確認、共有された。

(主な内容)

- ・周年行事の対応などについて、9月の会長懇談会において会長の皆さまに説明する。

(報7) 旅費・セミナー講演料等の変遷(20240614理事オリエンテーション)

8. その他

(1) 活力研の打合せ内容について

事務局より7月に開催する活力研について報告があり、確認、共有された。

(報8①) 後送：経過報告7月活力研論議テーマと各社との事前打合せ

(2) 会員懇談会の質問事項提出について

事務局より質問事項の提出について報告があり、確認、共有された。

(報8②) 後送：第24号(L-10)【本紙】代協会員懇談会の質問事項等提出のお願い

(3) ふうたのワンポイントレッスンについて

事務局より説明があり、確認、共有された。

(報8③) 《テーマ概略補記》ふうたのワンポイントレッスン9(月別テーマ案)202407~

(4) 会議体の参加者について(確認依頼あり)

- ・ブロック協議会 : 日本代協の会議体であり参加者は限定されている。ルール通り運営願いたい。(参照：日本代協HP__書庫__日本代協ブロック協議会運営ガイドライン)
- ・会長懇談会 : 代協会長が対象であり、オブザーブ参加はない。

■監事講評

津田監事より以下のとおり監事講評があった。

本日は、4名の新任理事と石川理事、横山相談役が新たな立場で参加された新メンバーによる理事会であった。初参加の方がどのように対応されるか興味深く拝見させていただいたが、積極的に発言され、その心配は皆無であった。

振り返るに、先月6月13日の通常総会は13時開始など新たな方式に果敢にチャレンジされ、その英断には改めて感心したことをお伝えする。一方で改選期の今回の総会は各地の新任の代協会長さんが初参加されるセレモニーの要素もある。新会長を迎え入れる立場での理事役員としての目配り気配りがもう少し必要ではなかったかと思う部分もあった。具体的な内容は役員に別途お伝えするので今後の一助としてもらえるとありがたい。

ジギョケイについて申し上げる。能登半島地震の復興支援における「なりわい事業支援」が展開する中で、事業継続力強化計画策定やBCP策定などの申請における資料提出を目の当たりにすると代協が進めてきたジギョケイなどの価値向上の取組に合致していることを痛感している。我々の認識が薄い中で、社会、国の施策展開は進んでおり、当代協が実施していることが間違っていないことも再認識したのでお伝えする。

以上

以上をもって、議長は理事会の終了を宣し、午後 4 時 59 閉会した。
終始異状なく議案の審議を終了した。
上記理事会議事録を作成し、議長並びに議事録署名人が記名押印する。

2024 年 7 月 12 日

議 長 会 長 小 田 島 綾 子 印

議事録署名人 監 事 津 田 文 雄 印

議事録署名人 監 事 小 島 俊 宏 印

議事録作成者 坂 雅夫

本書は、2024 年 7 月 12 日に開催された一般社団法人 日本損害保険代理業協会の 2024 年度
第 3 回理事会の議事録に相違ないことを証す。

2024 年 7 月 12 日

一般社団法人 日本損害保険代理業協会
会長（理事） 小 田 島 綾 子